

中国西域で伸びるワイン生産

主任研究員 阮蔚 (Ruan Wei)

中国の西域とシルクロードというと、敦煌や広大なゴビ砂漠、オアシスなどを連想する人が多いであろう。9月中旬にこのシルクロード沿いの農業を視察したとき驚いたのは、フランスのボルドーを目指すワイン産地がこのゴビ砂漠のなかに生まれていたことだ。

シルクロードと万里の長城が交差している唯一の場所は甘粛省の嘉峪関市であるが、その郊外に単体でアジア最大の貯蔵能力を持つワインセラーが立ち上がっている。紫軒酒業が建設したもので、あたり一帯には広大なブドウ畑が広がり、巨大なワイン醸造工場が稼働している。

中国西部の寧夏自治区から甘粛、新疆ウイグル自治区にかけては年間日射量が多く、降水量は少なく、寒暖の差が大きいため、ブドウ栽培適地だ。そのなかにシルクロードの町である嘉峪関や敦煌などが世界のワイン生産の「黄金ベルト」北緯38度から42度の間に位置し、中国ではワイン生産に最も向いた場所といわれる。この地がワインに向いているもうひとつのポイントは土壌。ゴビ砂漠の砂と周辺の土はカリウム、カルシウムなどに富み、ワイン生産の条件ともされるアルカリ性土壌となっている。

条件の良さに目をつけた中国西部の最大の鉄鋼メーカー、酒泉鋼鉄が事業拡大の一環として始めたのが紫軒酒業だった。酒泉鋼鉄は嘉峪関市に隣接する酒泉市にある。ちなみに酒泉市は近年、有人衛星などロケットの打ち上げ基地として世界に知られている。酒泉鋼鉄が新規事業としてワインを選んだ理由は、

条件の良さだけでなく、ワインは中国で消費が最も早く伸びる酒類だと予測しているからである。中国で最も飲まれているアルコール飲料はビールで、2009年に4,236万トンが消費され、今や米国を上回る世界最大のビール消費国となっている。中国の宴席で「乾杯」に欠かせないアルコール度数の高い白酒も年間約700万トン(09年)飲まれ、根強い人気があるが、最近では消費量は伸び悩んでいる。今、最も高い伸びを示しているお酒はワインだ。

紫軒酒業は05年に建設を開始、現在、第一期が完成、年間1万トンのワイン生産体制ができた。将来的には年間5万トンのワインを生産する計画だ。ワインセラー1号館は2万個以上の樽^{たる}、5,000トンのワインを貯蔵する能力を持っているが、現在、225リットル樽7,000個が並び、将来の出荷に備え、ワインが静かに眠っていた。同社のブドウ畑にはシャルドネ、ピノ・ノワール、メルロー、リースリングなど世界の主なワイン用のブドウ品種が育成されている。そのほとんどが有機栽培で、09年に中国国内と国際認定機関の両方から「オーガニック・ワイン」として認定された。

醸造工場には、フランスのブドウ圧搾機、ドイツのブドウ液こし器、イタリアの瓶詰め機など世界のワイン醸造業界で一流とされる設備が導入されている。需要が急増している中国国内向けだけでなく、世界市場を視野に入れ、「世界トップクラスのワイナリー」を目指している点に特徴がある。シルクロード最大の観光地、敦煌にも仏教遺跡「莫高窟」にちなんだ「莫高」ブランドというワイナリー



敦煌近くのブドウと綿花の間作畑

がある。敦煌は約2万haの農地があるが、現在すでに約6,670haのブドウが栽培され、今後1万3,330haに拡大していく計画をもっている。

甘粛省がワイン生産に力を入れ始めたのは、省内の食糧自給達成後、農業の付加価値向上が目標となったことによる。甘粛省は近年、土壤被覆用のビニールフィルムを使った節水農業が大きな効果を発揮している。夏から秋口にかけての雨期の直後に土の上にビニールフィルムを張り、地中の水の蒸発を避けるとともに土壤の温度を一定に保つ「保水・保温」農法だ。その結果、省内のトウモロコシ等の生産量は短期間に15~20%も増加、甘粛は食糧を他地域から調達する「移入省」から他地域に供給する「移出省」に転換した。年間降水量が37~735mmという乾燥地域としては、画期的な出来事だろう。基礎穀物の自給自足がほぼ達成されれば、次はより高収益の商業作物による収益拡大が目標となるのは自然な流れといってよい。

そこで選ばれたのが、ワイン生産用のブドウだった。ブドウは収穫に人手を要するほか、ワインにする過程でも地元雇用を創出する。甘粛省では古くから隣の新疆ウイグルとともに綿花が栽培されており、綿花が商品作物の代表だったが、現在ブドウは綿花の2倍以上

の利益のある高収益作物のため、省内で綿花からブドウへの転作が起きている。甘粛省と新疆産の綿花は「新疆綿」として世界に知られるが、今後、他作物への転換で作付面積は漸減していくとの予測がある。

中国国内でのワイン需要の急増がブドウへの転作の強い追い風になっているとはいえ、消費量はまだ世界8位にすぎない。しかし、人口規模からみて、ビールと同じように中国が20年後に世界最大のワイン消費国になってもおかしくない。そう考えれば、甘粛省など内陸のワイン醸造事業者、ブドウ栽培農家には大きなチャンスがあるだろう。

今や世界的なワイン産地となった米カリフォルニア州ナパ・ヴァレーは1970年代に開発が本格化した新しい産地だが、わずか30年で世界的名声を博すようになった。いずれ、酒泉が「中国のナパ」になってもまったくおかしくないだろう。

内陸の甘粛省で起きた「食糧の増産達成」「商品作物の作付け拡大」「高収益作物へのシフト」という流れは中国農業にとり少なくとも次の2点の意味を持つと言えよう。

第一に、水不足が深刻な制約となっている穀物生産が、節水農法で新たな増産可能性を持ち始めたこと。ことに農業以外の産業が少ない内陸での節水農業の技術進歩の意味は大きい。

第二に、商品作物とりわけ高収益作物への転換で、農家の所得が増加する可能性が出ている点だ。穀物の自給自足維持と農家の収入増は今、中国農業の最大の課題だが、甘粛省はその問題への解決のひとつの可能性を示したとも言えよう。

(ルアン ウエイ)